

「平和の文化」を みんなで育みませんか

平和のために、私たちにできることはたくさんあります。

例えば、言語や文化などさまざまな違いを超えて、感動や思いを分かち合えるスポーツや芸術などを通して平和への思いを表現することもその一つです。また、風習の違う人たちと交流してお互いの理解を深めることもできることの一つです。

このように、身近なところから平和について、考え、行動し、日常の中に「平和の文化」を根付かせて、それを広げていくことがとても重要です。

そこで、長崎市は「平和の文化の醸成」を取り組みの柱に加え、その一環として長崎市「平和の文化」事業認定制度を創設しました。

7月と8月に認定した3件の事業は、いずれも、平和のための行動に、多くの人を巻き込んで、裾野を広げていく、平和の文化事業にふさわしい取り組みです。

被爆100年に向けて、一人でも多くの人たちの心に平和の種をまき、それが大きく育って、「平和の文化」を世界中に広げていくために、ともに平和をつくる仲間になりませんか。

「平和の文化」として 3つの事業を認定しました

「平和祈念活動」

V・ファーレン長崎

「愛と平和と一生懸命」をコンセプトに、チーム・クラブスタッフ・ファン・サポーターが一体となって平和への思いを発信していこうと、選手による平和宣言や、平和への願いを込めたキャンドル作り、千羽鶴制作ワークショップの開催など、さまざまな活動を展開しています。スポーツを入口に平和をつくる仲間を増やす取り組みとして認定しました。

©VVN



「平和を願う灯籠流し」

学生組織サークルK 長崎大学

爆心地横の下の川に、平和を願う灯籠船を盛大に浮かべるイベント。灯籠船は、大学生が市内の中・高校生と一緒に、世界の子どもたちから寄せられたイラストを帆の部分に貼り付け、平和へのメッセージを書いたものです。灯籠を通してほかの国の子どもたちと平和への思いを共有し、若者から若者へと思いをつなぐ取り組みとして認定しました。



Photo:+U PHOTOGRAPHY



「Pray for Peace Collection 2021 in 長崎」

平和への願いをファッションとアートで表現するイベントで、同実行委員会の主催により、8月9日に長崎で開催されました。県内在住の被爆2～4世などの方々から選ばれたモデルの皆さんが広島、長崎、沖縄から寄せられた千羽鶴のドレスなどを着用し、会場には多くの人たちの手形を使ったアート作品が展示されました。長崎から平和の新しい価値観を発信する取り組みとして認定しました。